

実践報告

# 携帯端末利用状況の調査に基づく情報モラル教育の実践

野崎 勝謙\* ・ 古賀 萌子\* ・ 納所 健三\*\*  
野崎 慎悟\*\*\* ・ 今村 一希\*\*\*\* ・ 石橋 玲奈\*  
古川 卓\* ・ 角 和博\*

## Practices of Information Ethics Education based on Survey of the Usage on Portable Information Terminal

Katsunori NOZAKI\*, Moeko KOGA\*, Kenzou NOSYO\*\*,  
Shingo NOZAKI\*\*\*, Kazuki IMAMURA\*\*\*\*, Reina ISHIBASHI\*,  
Takashi FURUKAWA\* and Kazuhiro SUMI\*

### 【要約】

本研究では、高等学校1年生を対象にケータイ利用に関するアンケート調査を行い、その結果を基に、スマートフォンの利用拡大に伴う最新の情報モラルや情報セキュリティに関する教育の必要性を検討した。

### 【キーワード】

携帯端末, スマートフォン, 情報モラル教育, コミュニティFM, ラジオ番組

## 1. はじめに

最近の携帯電話の市場では、スマートフォンを推進する傾向にあり、消費者の需要はフィーチャーフォンからスマートフォンへと移りつつある。スマートフォンはフィーチャーフォンと比べ非常にパソコンに近い存在であるため危険性も多くはらんでいる。しかし、多くのスマートフォンユーザーがそれらを知らないまま利用している現状にあると考えられる。従来の携帯電話と比べて機能が充実しているスマートフォンでは、ネットの安全・安心への意識がより求められる。

そこで本研究では、高等学校1年生、小学校4, 5, 6年生を対象にケータイ利用に関するアンケート調査を行い、その結果を基に、スマートフォンの利用拡大に伴う最新の情報モラルや情報セキュリティに関する教育の必要性を検討した。

## 2. 携帯端末利用状況の調査研究

### 2.1 調査方法と調査項目

2012年4月、佐賀県内の私立高等学校の1年生217名を対象にアンケート調査を行った。質問内容としては、携帯電話の所持状況、購入時期、フィルタリングの有無、SNSの利用状況、掲示板や動画サイトからの音楽の無料ダウンロード経験の有無の計5項目である。

また、2012年に、佐賀県内の小学校の4, 5, 6年生207名を対象にアンケートを行った。内容としては、自分の携帯電話を所持しているか、動画サイトでお金のかからない動画を見たことがあるか、動画サイトで動画をダウンロードしたことがあるか、LINEなどのアプリを知っているか、任天堂DS, 3DS, PSP (プレイステーションポータブル)

\*佐賀大学文化教育学部 \*\*小城市立桜岡小学校

\*\*\*佐賀大学教育学研究科 \*\*\*\*佐賀大学理工学部

をインターネットにつないで遊んだことがあるかの計5項目である。

## 2.2 調査結果

「携帯電話を持っていますか」(図1-1)という問いに対し、生徒のスマートフォンの所有者が全体の約60%を占めた。また、それ以外(フィーチャーフォンなど)を所持している生徒は約30%である。今後中学のときにスマートフォン以外の携帯電話を使用していた生徒が、スマートフォンを選ぶ可能性は十分にある。

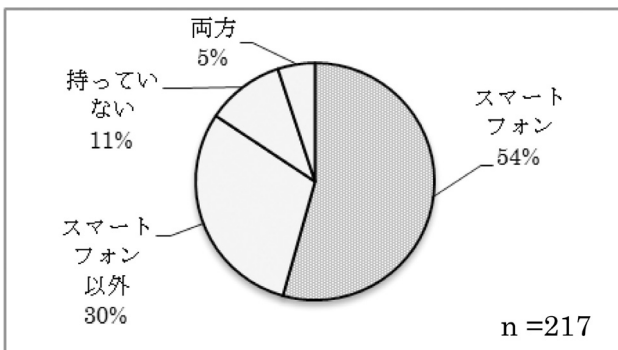


図1-1 携帯電話を持っていますか

小学校高学年(図1-2)においても、スマートフォンを所持している児童は約10%、フィーチャーフォンを所持している児童まで含めると約25%と、全体の4分の1ほどを占める結果となった。

また、現状持っていない児童についても、今後中学に上がった際の合格祝いや塾の送迎の連絡用として、スマートフォンを購入する児童が増えることも十分に考えられる。

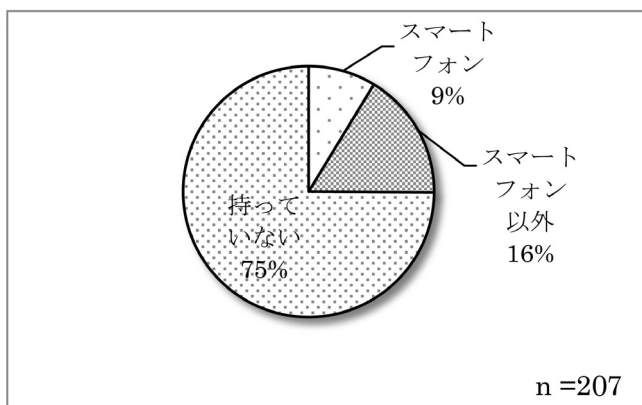


図1-2 自分の携帯電話を持っていますか

「携帯電話はいつ持ち始めましたか」(図2)という問いに対し、多くの生徒が中学校3年生以降に自分の携帯電話を手に入れている結果となった。調査時期はすでにスマートフォンが多く販売されていた為、この時期に購入した者はほとんどがスマートフォンユーザーの可能性が高い。

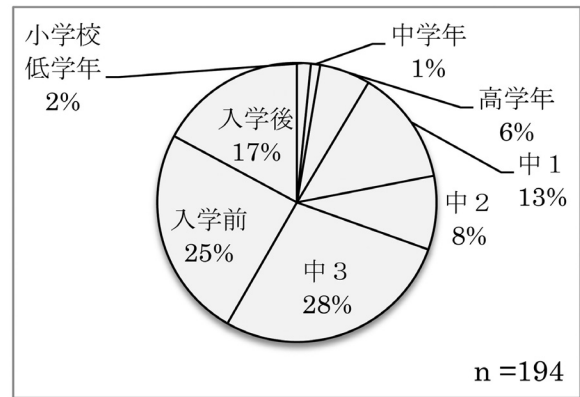


図2 携帯電話はいつ持ち始めましたか

「フィルタリングはかかっていますか」(図3)という問いに対し、約60%の生徒がフィルタリングサービスを利用している結果となった。しかし、スマートフォンにおけるフィルタリングサービスは無線LANの使用や、デフォルトのブラウザ以外を使用するなどの行為によりフィルタリングの機能がなくなるので、利用者を完全に有害サイトから守ることができないのが現状である。

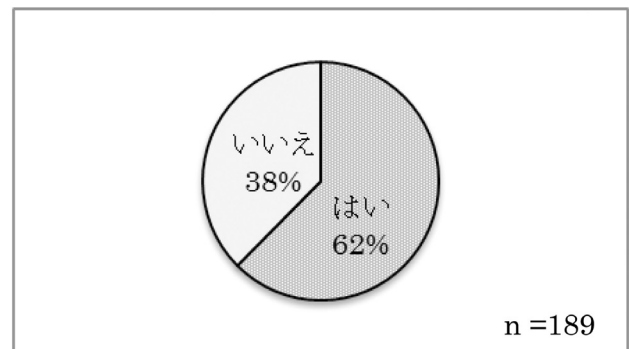


図3 フィルタリングはかかっていますか

「SNSは利用していますか」(図4)という問いに対し、ほとんどの生徒がSNSを利用しているという結果となった。現在はこの結果よりも増えていると考えられる。高校生の利用目的としては無料ゲーム、日記、チャットなどがあげられる。し

しかしこれらのSNS上では、サービスを通じて知り合った者同士でのトラブルや事件の発生が多く報告されているのも事実である。

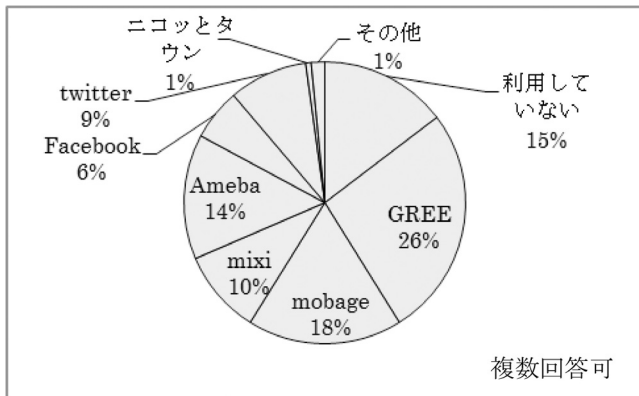


図4 SNSは利用していますか

「掲示板や動画サイトなどからアーティストの曲を無料でダウンロードしたことはありますか」(図5-1)という問いに対し、半数以上の生徒が違法ダウンロードの経験はないという結果であった。しかし、今後友人の紹介などをきっかけに、そのような行為に走るということも十分に考えられる。

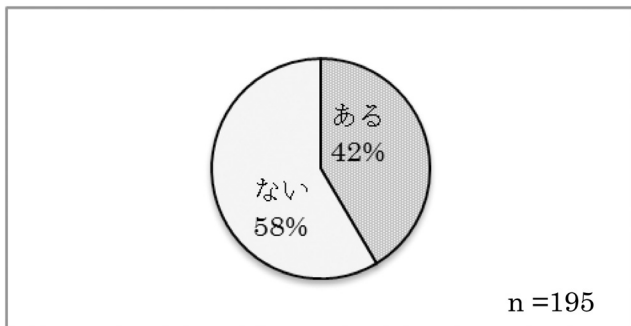


図5-1 掲示板や動画サイトなどからアーティストの曲を無料でダウンロードしたことはありますか

「動画サイトでお金のかからない動画を見たことがありますか、動画をダウンロードしたことがありますか」(図5-2)という問いに対して、約60%の児童が「見たことがある」と答え、うち数名が「動画をダウンロードしたことがある」と答えた。

2012年6月27日に公布された著作権法改正の内容も違法ダウンロードに関する内容を含んでいるため、改めて著作権問題について考える機会を設ける必要があると考える。

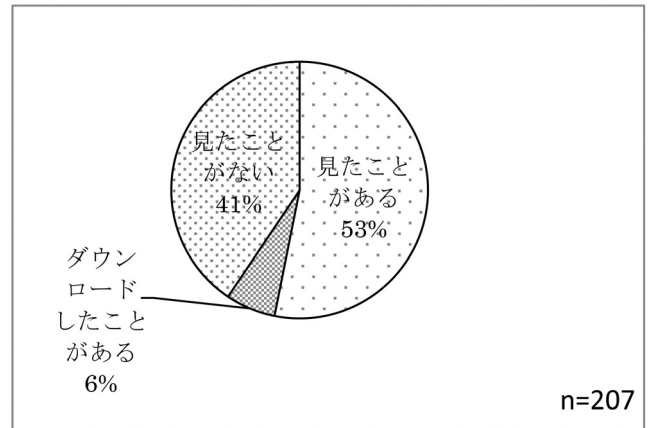


図5-2 動画サイトでお金のかからない動画を見たことがありますか、動画をダウンロードしたことがありますか

「任天堂DS、3DS、PSP（プレイステーションポータブル）をインターネットにつないで遊んだことはありますか」(図6)という問いに対して、インターネットにつないで遊ぶことを経験している児童は約40%，うち約10%が日常的にインターネットに接続して遊んでいるという結果になった。

PCや携帯端末と違って、携帯ゲーム機はインターネットツールとしての認識が薄いため軽く見てしまいがちだが、携帯ゲーム機もインターネットツールであるという認識をしっかりと持つ必要があるだろう。

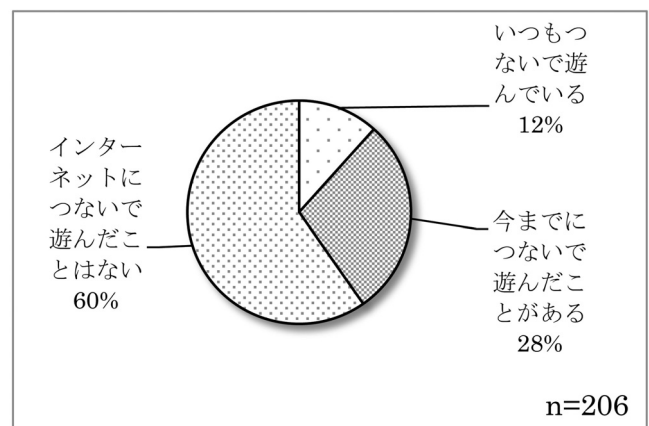


図6 任天堂DS、3DS、PSP（プレイステーションポータブル）をインターネットにつないで遊んだことはありますか

## 2.3 調査の考察

従来の携帯電話と異なり、スマートフォンは、フリースポットであればWi-Fi接続で自由にインターネットに接続できる。このためフィルタリングも意味をなさなくなる。このような環境が子どもたちのネット環境として広まりつつある。

携帯端末機器は年々急速に多様化し、利用者の低年齢も進んでいる。この状況の中でも実際には学校教育で情報モラルを学ぶ機会が少ない現状にあり、「子どもたちの身の安全を守る」ための対策は追いついていない。これからはより一層、自律的な行動規範に基づいて、情報モラルに基づくインターネットの利用が求められる。

## 3. 新しい情報モラル教育の実践

道徳的規範精神を身につけた子どもたちを育てるための新しい情報モラル教育の新たな試みとして、本著者たちは『特定非営利活動法人 ITサポートさが』と協力し、FMラジオを用いた情報モラル啓発の活動実践を行なった。

### 3.1 FMラジオを用いた理由

FMラジオを用いた理由としては、「新しい対象層の取り込み」を狙いとしている事がある。

情報モラルの啓発となると、どうしてもデジタルな内容が多く含まれてくる。デジタルな内容を、デジタルなコンテンツを用いて啓発したとしても、情報機器やアプリケーションに疎い人たちには効果が薄い。しかし、前述の通り、そういった情報機器やアプリケーションに疎い人たちが市場でスマートフォンを薦められ、または求めるようになってくる。

そこで、それらの人たちに効果がある啓発の方法を考えた時に、用いるコンテンツをアナログに近づけるといふ手段が効果的ではないかと考え、FMラジオを用いるという結論に至った。

### 3.2 FMラジオの番組内容

佐賀市近郊に電波を送信しているコミュニティラジオのラジオ局に協力いただき、平成24年9月6

日より、奇数週木曜20時から21時までの1時間、ラジオ番組として計9回の放送を行なった(平成25年1月7日現在)。

番組内のコーナーは、「語ってモラル」、「モラドラ」、「今さら聞けないICT用語」、「今週の検索」の4つがある。コーナーの説明と実践内容については以下に記述する。

#### 3.2.1 語ってモラル

警察・学校・PTA関係者など子ども達を取り巻く大人や携帯電話事業者・ソフトウェア開発等のIT関連事業者の方々をお迎えして、子どもとネットの問題について語ってもらおうというコンセプトのコーナー。

これまでに、佐賀県最高情報統括監である森本登志男氏、佐賀県警察本部生活環境課サイバー犯罪対策室 課長補佐である藤井信吾氏、そして特定非営利活動法人 ITサポートさがの理事である陣内誠氏にゲストとして出演いただき、佐賀県のICTの現状やサイバー犯罪、佐賀県の情報モラル教育の現状について語っていただいた。

#### 3.2.2 モラドラ

ネットトラブルに関連するラジオドラマを聴いてもらって、その予防策や解決方法をみんなで考えようというコーナー。

佐賀県内の高等学校の放送部に協力していただいてラジオドラマを作ってもらい、そのドラマに出演してくれている高校生をゲストに呼び、自分ならどうするか、どうすればよかったのかなどを考えてもらう。

これまでに、高志館高等学校放送同好会による「著作権」をテーマとしたドラマと、佐賀商業高等学校定時制の生徒による「フィルタリング問題」をテーマとしたドラマを作成してもらい、放送した。

#### 3.2.3 今さら聞けないICT用語

よく聞くけど、いまいちよくわからない、でもほかの人に聞くのもちょっと…という方のために

ICT用語を取り上げてそれについて話すコーナー。

主に基礎的な知識や、子どもたちや若い世代にとって当たり前のように使っている用語の中でも、意味をよく理解せずに使っている事がよくある。そういった用語を紹介し、改めてしっかりと理解してもらおうというコンセプトのもと作られたコーナーである。これまでにスマートフォン、パケット定額サービス、Twitter、Wi-Fi、WiMAX、おサイフケータイ、スカイプ、フィルタリングといった内容を取り扱っている。

### 3.2.4 今週の検索

パーソナリティが気になったIT関連のキーワードについて取り上げたり、リスナーに知ってほしいこと、最新のIT情報などをわかりやすく解説したりするコーナー。これまでに著作権、Windows8、LTEなどの内容について取り扱っている。

具体例として表1にFMラジオ番組放送第1回の放送原稿を示した。

この番組の宣伝としてTwitterのアカウントを作って番組の情報を流すといった事も行なっている。

また、前述のコーナー企画以外にも、番組内で『ITサポートさが』が主催・協賛あるいは後援する、情報モラル教育に関する講演会やワークショップなどを宣伝するといった事も行なっている。

### 文献

- 1)陣内、横尾、江口、石橋、浴本、松田、青柳、小倉、山崎、羽田、中村、角. 2009.「青少年の情報モラル醸成のための産官学民連携に保護者向け教育実践—青少年の情報モラル育成のためのドラマ教材—」『佐賀大学教育実践研究』第25号, 285-292
- 2)小倉、山崎、陣内、横尾、江口、石橋、浴本、松田、山田、岩永、三枝、野崎、羽田、中村、角. 2010.「佐賀大学生が取り組む市民活動 kodomo2.0」『佐賀大学教育実践研究』第26号, 215-220
- 3)陣内、浴本、横尾、青柳、岩永、山田、野崎、一瀬、橋本、石橋、羽田、中村、角. 2011.「情報モラル教育におけるドラマ教材開発と相談窓口設置」『佐賀大学教育実践研究』第27号, 153-160
- 4)ITサポートさが, 2011,「親子で学ぶ情報モラル啓発モデル事業 成果報告書」
- 5)角、陣内、横尾、浴本、青柳、池之上、中島、野崎、今村、石橋、野崎、羽田、中村. 2012.3 「市民活動kodomo2.0による家族のための情報モラル啓発活動」第9回情報コミュニケーション学会(青山学院大) 発表論文集, 84-85
- 6)野崎、陣内、浴本、横尾、青柳、今村、羽田、角. 2012 「大学生が参画するKodomo2.0のサイバー防犯活動の実践」『佐賀大学教育実践研究』第28号, 281-287
- 7)古賀、野崎、角. 2012 「高等学校1年生への携帯端末利用状況の調査に基づく情報モラル教育の検討」2012年九州PCカンファレンス in 宮崎

表1 ラジオ番組の放送原稿

日付け:	2012.9.6	曜日:	木	放送時間:	20:00~21:00
パーソナリティ	今村一希・野崎勝謙・石橋玲奈			ゲスト	森本C I O
タイムスケジュール					
時間	素材	素材・放送内容			
20:00	jingle	OPトーク(5:00) k odomo2.0のradio2.0~! 時刻は20時を回りました。皆さん初めまして、k odomo2.0大学生メンバーのカズくんです！同じくかつちゃんです！お嬢です！ k odomo2.0とは子どもたちのネット環境を守る活動を行っている団体です。 この番組はそんなkodomo2.0のメンバーとともにラジオで情報モラル・メディアリテ			

♪M1	<p>ラシーを学ぼう！という番組です。</p> <p>フリートーク：kodomo2.0の活動について、夏休みの思い出 メッセージの宛先 ハガキ：〒840-0826 佐賀市白山2丁目7-1 えびすFM 「kodomo2.0のradio2.0」宛て FAX0952-97-9699 <a href="mailto:mail.896@ebisufm.com">mail.896@ebisufm.com</a> kodomo2.0のradio2.0、最後まで、よろしく～ JASRAC No.</p>
20:10	<p>今、お届けした曲は、「 」の「 」でした。</p> <p>☆コーナー①(20:00) 「語って！モラルー」</p> <p>今：番組最初のコーナーは「語ってモラル」のコーナーです。どんなコーナーなの。 嬢：このコーナーは、警察・学校・PTA関係者など子ども達を取り巻く大人や携 帯電話事業者・ソフトウェア開発等のIT関連事業者の方々をお迎えして、子ども とネットの問題について語ってもらうコーナーです。</p> <p>勝：今回のゲストは、佐賀県 最高情報統括監 森本登志男さんです。森本C I O と呼ばさせていただきます。</p> <p>嬢：森本C I Oは岡山県出身で、京都大学で合成化学課を卒業されています。 社会人生活の最初は、化学メーカーからスタートされ、27歳の時にジャストシステ ムに転職し、その後マイクロソフトに転職なさっています。日本のパソコン黎明期 から、IT関連企業の最先端で20年以上勤務され、2011年4月から、佐賀県最高情報統 括監として着任されました。</p> <p>(1)県庁業務の電子化推進、(2)県内市町の基幹情報システムの共同利用化、(3)ICT を活用することによる県内産業の活性化や、医療・教育分野の高度化などを主要業 務とされています。</p> <p>県庁での業務のほかにも、プライベートの時間を使って、ICTを活用した地域活性化 や非営利団体の活動推進など、地域の方々との連携を図っていらっしゃいます。</p> <p>平たく言えば、佐賀県のICT推進のトップにいらっしゃる方です。</p> <p>今：そもそもICTとは何かというところからお伺いしましょう。</p> <p>森：</p> <p>勝：CIOの仕事内容と、ICTの観点から佐賀県の状況 (3)を中心に</p> <p>森：</p> <p>嬢：今後のICT推進の課題について</p> <p>森：</p> <p>今：森本CIO、ありがとうございました。</p>